

<研究テーマ>

つくりだすことに熱中する図画工作科学習

～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして～

<研究のねらい>

図画工作科においての主体的・対話的で深い学びを生み出す授業のあり方を追究する。

校内研究を行ってめざす授業像を明らかにした上で、全員研等で公開授業を行い、積極的に研究成果（課題）を発信する。

<研究の年次計画>

〔一年次〕平成29年度 子どもの活動意欲を喚起し、造形的な見方・考え方を働かせる指導の工夫

〔二年次〕平成30年度 子どもの造形的な見方・考え方を働かせる、

造形活動と鑑賞活動を関連させた指導の工夫

〔三年次〕平成31年度 子どもが自己の伸びを実感する指導と評価の工夫

<平成30年度〔2年次〕の取組>

(1) 研究の柱（重点的な取組）

◇ 造形的な見方・考え方を働かせる工夫

- ・ 活動意欲を喚起し、子ども一人一人の感性や想像力を働かせることができるよう、題材設定や鑑賞材料を工夫する。
- ・ 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことができるよう、見方や感じ方を広げる対話的な活動を設定する。

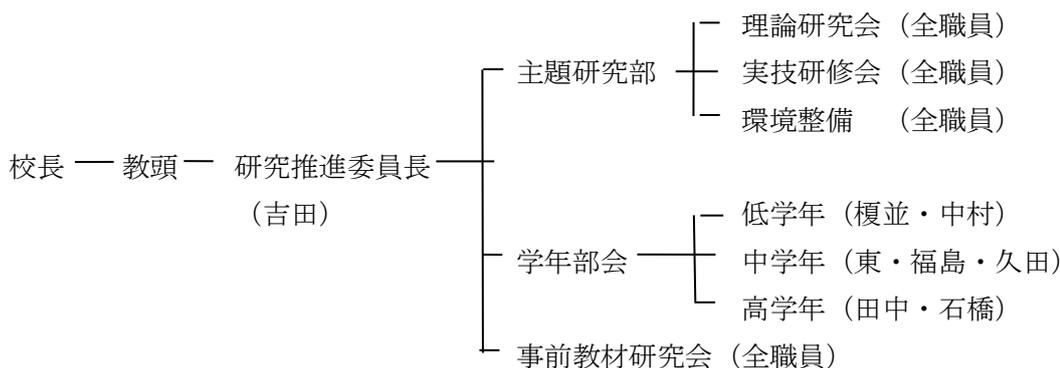
◇ 造形活動と鑑賞活動を関連させた指導の工夫

- ・ 題材のねらいを明確にし、造形活動と鑑賞活動を往還するように学習過程を工夫する。

(2) めざす子ども像

- 表現や鑑賞の対象に対して、強い関心・意欲をもち、進んでかかわろうとする子ども。
- これまで身に付けてきた知識・技能をいかしたり、新たな知識・技能を獲得したりして、自らの手で課題解決をしていく子ども。
- つくりたいもののイメージを膨らませたり、更新したりしながら自ら納得のいくものをつくりだそうとする子ども。
- 自分らしいものをつくりだすことに喜びを感じる子ども

<校内研究体制>



<研究の成果の発信>

- 校内研・西ブロック全員研修会における公開授業
- 学校便りや学校ホームページ

<研究の経過>

- 5月30日 主題研修会 昨年度の成果と課題の確認 本年度の主題研究推進計画提案
- 6月14日 6月実践（第6学年）事前検討会
- 6月20日 6月実践（第6学年）場面検討会 アンケート実施
- 6月25日 第6学年 公開授業・研究協議会
- <7月20日までに 2学期 全員研修会実践題材決定 >
- 7月27日 全員研修会 場面検討会（春野指導主事、指導助言者等来校）
- 8月29日 30日 全員研修会指導案検討会（春野指導主事、指導助言者等来校）
- 9月 5日 2学期研修計画・全員研修会実施計画等の確認・全員研修会授業準備
- 9月14日 全員研修会 授業準備（近接学年で協力）
- 9月19日 全員研修会 授業準備（板書・発問の検討）
- 9月25日 全員研修会 授業準備（場の検討）・全員研修会会場・運営計画
- 9月27日 全員研修会 会場設営 授業準備
- 9月28日 全員研修会（第2学年 第4学年 第5学年 公開授業）
- 10月10日 実践授業の振り返り（福岡教育大学 笹原准教授来校）
- 11月21日 各自の研究のまとめについて提案
- 2月13日 主題研究のまとめ

<研究協議会（校内授業研）のもち方>

〔授業者〕

- ・検討会の初めに授業実践を通して、手立ての有効性について述べる。
- ・検討会の終わりに、検討会を通して、授業づくりについて、考えを新たにしたことを述べる。

〔参観者〕

- ・授業中は、子どもの姿をよく観察し、手立てが有効に働いているか吟味する。
- ・授業後に、子どもの姿から見た手立ての有効性についての考えを付箋に簡潔に書く。
- ・協議会の初めに、書いた付箋をホワイトボード等に貼る。（思考の視覚化）
- ・手立ての有効性について意見を述べ、全員で検討する。

<研究のまとめ>

研究の着眼にそって、授業実践を通して得た「主体的・対話的で深い学び」を生み出すポイントを付箋に書いて、模造紙に貼り、話し合う。



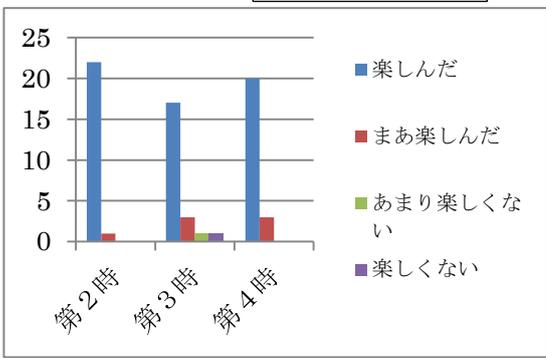
<本年度の具体的実践>

◆ 題材ごとの着眼

題材名	【着眼1】 題材設定や 展開の仕方の工夫	【着眼2】 造形的な見方・考え方を 働かせる工夫	【着眼3】 学習評価の工夫
2年 おもしろハットで 大へんしん！ A表現（2）立体	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な色や形の材料を選ぶ。 「おもしろハット」「大変身」・非日常的な楽しさの喚起 ・「であう」段階…様々な形色の珍しい帽子の写真の鑑賞 ・鑑賞活動の効果的な位置付け（材料の鑑賞・自分の作品や行程・友達の作品） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料コーナーを真ん中に配置 ・活動全体の見通しの掲示 ・しぼる、つまむ等の操作を実物と一緒に掲示 ・「おもしろハットで大変身パーティー」の設定 ・材料を既習のものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえりシート」 一枚の画用紙（裏表）に毎時間の活動を絵や言葉で残す。
4年 わたしのお気に入り の木 A表現（2）絵	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使って木と触れ合う時間 ・「みつける」・ユニークな木の絵の鑑賞 ・「あじわう」・お気に入りの木展覧会 ・鑑賞活動の効果的な位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験した様々な表現技法を掲示 ・材料や用具コーナーの設置 ・「ためし紙」で技法を試しながら活動 ・絵と技法一覧を用いた友達との交流 ・表現途中の「鑑賞タイム」の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえりシート」 一枚のワークシート 自分の思いの確認、思いの変容の捉え ・完成した絵を写真に撮り、ワークシートに貼り、書き込む。
5年 だんボールで、試して つくって ～未来のつついタウン～ A表現（2）立体	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心から「段ボール」を主材料とする。（可塑性・可変性） ・「未来のつついタウン」をつくることを題材として設定 ・「つくり、つくりかえ、つくる」学習展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来」というキーワードからウェビングマップを活用 ・参考作品の提示（鑑賞）と話し合い ・グループ学習 ・材料スペースの設置 ・いろいろな種類の段ボールの準備 ・交流ができる場の設定 ・ミニ鑑賞タイム・1単位時間の終わりに設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえりシート」をもとに、子どもが毎時間ごとに振り返りを行う。
6年 墨のうた A表現（2）絵	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な作品の鑑賞（卒業した6年生の作品） ・「試す」→「イメージを広げる」→「自分だけの〇〇の世界を表す」の三段階の学習展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・「試す」段階で描いた「墨遊び」の全作品を鑑賞 ・表現とイメージを結ぶ話し合い ・必要な材料や用具を豊富に準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえりシート」 自分の思いをどのくらい表現できたかを%で図示。 ・活動の振り返りと次時の見通し

◆ 成果と課題

【着眼1】 題材設定や展開の仕方の工夫

学年	○ 成果 ★ 課題	キーワード																				
2年	<p>○ 非日常的な楽しさを喚起するような題材名（「おもしろハットで大変身」）や、さまざまな形や色の珍しい帽子の写真を鑑賞する活動は、子ども達の発想力を刺激するものであった。自分でイメージしたものを立体にする満足感が、「あじわう」段階の「おもしろハットで大変身パーティー」での表情に表れていた。</p> <p>★ 主に帽子の土台に使ったカラー方眼紙は、耐久性があり、何度も被ることや、様々な材料をつけるにはよかったが、細かな形をつくったり他の材料を貼ったりする際に、難しい点もあった。他の材料との組み合わせや、材料を試す時間の確保などの手立てが必要だった。</p>	<p>非日常的な楽しさを喚起する題材名 様々な形や色の珍しい帽子の写真の鑑賞</p> <p>★他の材料との組み合わせや、材料を試す時間の確保</p>																				
 <p>導入での帽子の写真の鑑賞</p>																						
 <p>鏡に映す様子</p>																						
 <p>「おもしろハットで大変身パーティー」の様子</p>																						
4年	<p>○ 実際に木と遊びながら五感を使うことで、想像を膨らませやすくなった。</p> <p>○ 絵に表す課程で、描き方に困った時に自分の木に立ち返ることができたため、思考が途切れることがなく活動できた。</p> <p>★ 第3時で、「あまり楽しくない」、「楽しくない」と答えた子どもが1名ずついた。これは、既習の技法を選んで葉を表す活動の中で、「葉の形をどうするかちょっと困りました。」「時間が無く急いでいたから。」という内容であった。活動の際に、困っている子どもの見取りとワークシート記述の時間調整（振り返りは発表のみで行い、空き時間にワークシートに書かせる等）の手立てが必要であった。</p>	<p>木と遊びながら五感想像</p> <p>★困っている児童の見取り ★ワークシート記述の時間調整</p>																				
 <p>木で遊ぶ子ども達</p>																						
 <table border="1"> <caption>児童の楽しさに関する回答の割合</caption> <thead> <tr> <th>時</th> <th>楽しんだ</th> <th>まあ楽しんだ</th> <th>あまり楽しくない</th> <th>楽しくない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2時</td> <td>22</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>第3時</td> <td>17</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第4時</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		時	楽しんだ	まあ楽しんだ	あまり楽しくない	楽しくない	第2時	22	1	0	0	第3時	17	2	1	1	第4時	20	2	0	0	
時	楽しんだ	まあ楽しんだ	あまり楽しくない	楽しくない																		
第2時	22	1	0	0																		
第3時	17	2	1	1																		
第4時	20	2	0	0																		

<p>5年</p>	<p>○ 段ボールを主材料としたことや、「切る、丸める、立たせる、水に浸す」などを試したり、加工したものを組み合わせたりしながら「未来のつついタウン」の立体物をつくり出す題材を設定したことは、子どもの発想や構想の能力を引き出しつつ、活動意欲を喚起し続けることにつながった。</p> <p>この題材の有効性として、試しながら何度でもやり直しができること。段ボールの特徴を生かして組み合わせながら多様な立体的な形が表れることなど、子どもの興味・関心を強く引きつける要素があったと考える。</p> <p>★ 本時においては、「あまり満足できなかった」という子どもが2名いた。その背景には、段ボールを加工して組み合わせる立体にする難しさや、発想・構想の面でのつまづきがあったと考える。実際に、「屋根の部分をつくりたくてもなかなかくっつかなかった」「段ボールで長さを測って作るのに困った」など、自分がつくろうとしているものが実現できなかったことも理由の一つと言える。最終的には、何とか作品をつくり出すことができたが、個別の支援をしっかりと行う必要性を感じた。</p>	<p>段ボール 試しながら 「つくり、つくりかえ、つくる」学習展開 何度でもやり直しが できる 多様な立体的な形 ★個別の支援</p>
<p>6年</p>	<p>○ 子ども達は、同年齢の6年生が描いた身近な作品を鑑賞することにより、自ら様々な表現方法を見いだすことができた。自分が見いだした描き方を試す段階では、今まで経験したことのない技法で描き、その美しさやイメージの違いに気づくことができた。</p> <p>学習段階を「試す」・「イメージを広げる」・「自分だけの〇〇の世界を表す」の三段階に分けることにより、子ども達は、自分のイメージが広がっていくことで、より広い紙に表現したいという意欲が高まっていった。そこで、四つ切の四分の一・四つ切・全紙と、徐々に紙の大きさを大きくすることで、子どもの活動意欲が持続し、表現したいもののイメージも広げていくことができた。</p> <p>★ 第1時、2時においては、「時間が足りなかった。」と記述した子どもが5名いた。一人一人の思いを大切にしたいという考えから、話し合い活動に時間をかけすぎたためであろう。子どもたち一人一人の思いを大切にしつつも、表現活動の時間を十分に確保できる話し合いの仕方を検討していく必要があると実感した。</p>	<p>身近な作品の鑑賞</p> <p>経験したことのない技法</p> <p>「試す」→「イメージを広げる」→「表す」の学習過程 用紙を徐々に大きく。</p> <p>★表現活動の時間の確保</p>



(卒業生が描いた) 身近な作品の鑑賞



「試す」段階 四つ切の1/4



「自分だけの〇〇の世界」を全紙に表現

【着眼2】造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

学年	○ 成果 ★ 課題	キーワード
2年	<p>○ 材料コーナーを教室の真ん中に設置したことで、双方から材料を選んだり、友達の活動を見合ったりすることができたことが、活動のイメージがもちにくい子どもにとって、よい支援となった。自分のイメージしたものをつくるといふ、少し難しい活動であったものの、既習の材料にこだわったことが、子ども達の抵抗を少なくしたと思われる。</p> <p>★ 接着の難しさが、子ども達の活動を停滞させてしまった場面もあったため、ホッチキスやテープ等の接着剤も用意する必要があった。また、糊下紙やお手拭の準備も必要であった。</p>	<p>材料コーナーの配置の工夫</p> <p>既習の材料</p> <p>★接着の難しさ ⇒他の用具の準備</p>
4年	<p>○ 事前アンケートで「絵を描くことがきらい」と答えた6名の子どもうち、全員が「自分の思いを表すことができた」「まあまあ表すことができた」と答えている。これは、「ためし紙」で直接画用紙に表す前に技法を試したり、用具コーナーで用具を選びながら他の作品を見たりしたことで、安心して表現することができたためであると考えられる。</p> <p>また、活動前と活動途中に「鑑賞タイム」と取り入れたり、イーゼルで絵を見せながら説明をしたりしたことで、他の作品や友達の言葉から刺激を受け参考にすることができ、思考が滞ることなく表現することができた。絵を描くことが苦手な子どもにとって、「安心して活動ができること」「アドバイスや参考作品によって刺激をもらえること」が、よい影響を与えたとみられる。</p> <p>★ 第3時では、6名の子どもが「自分の思いを表せなかった」「あまり表せなかった」と答えている。この6名は、事前アンケートで見取っていた「絵が苦手」と考えていた子ではなかった。「ビー玉を転がして『自分いろがみ』を作ったが、切る大きさが小さすぎて時間が足りなかった」「あまりひらめかなかった」「ストローがうまくいかなかった」など、技法に対する困難さと発想の面で困っていた。事前の見取りばかりに捉われず、広く子どもを観察し効果的な助言が必要であった。また、子ども同士のやり取りの中で、自分で課題を見つけて取り組むことができるような手立てが必要であった。ローラーを使う際の絵の具の量や、練り板の使用など、より子どもが表現活動しやすい指導と準備が必要であった。</p>	<p>「ためし紙」での技法の試し 用具コーナー</p> <p>活動前と活動途中の鑑賞タイム 絵を見せながら説明（言語活動）</p> <p>★技法・発想のつまずきへの効果的な助言</p> <p>★用具の準備</p>



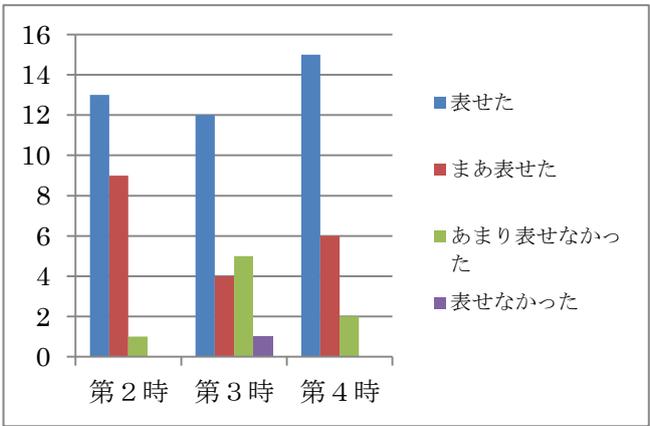
材料コーナー



ためし紙



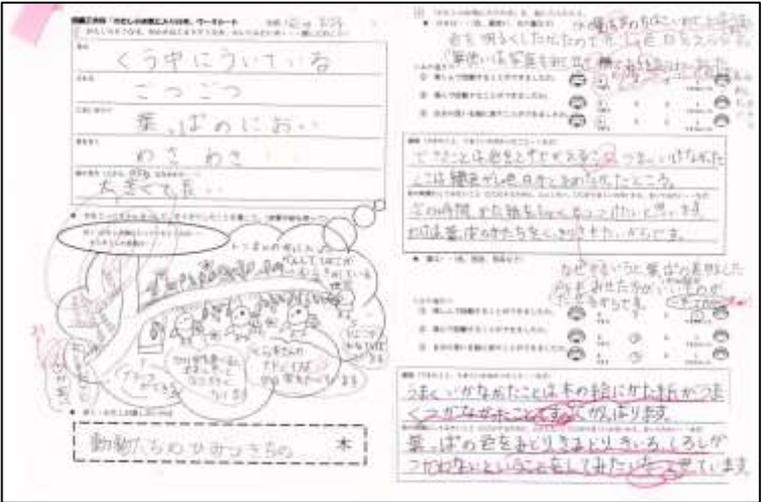
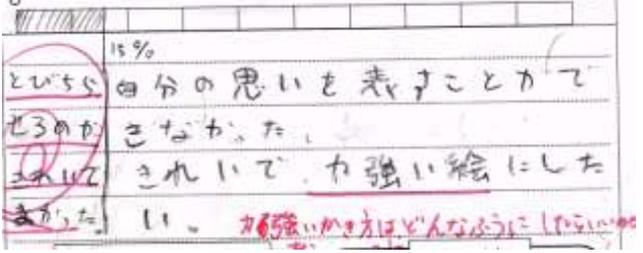
用具コーナー



5年	<p>○ 教師のモデル作品を提示し、鑑賞する活動を取り入れたことは、子どもにとって自分の造形的な見方や考え方を働かせながら発想・構想を広げたり深めたりする機会となった。また、グループ学習や材料スペースの工夫によって、会話や共同が生まれ、対話的な学びへとつながった。</p> <p>★ 一単位時間の終わりの振り返りの時間に、グループでミニ鑑賞会を設定し、作品のよさや美しさを味わったり、自分の作品を振り返ったりできるようにしたが、作品に対する自分の思いを進んで交流できず、あまり効果的ではなかったといえる。中央のスペースにそれぞれの作品を置き、「未来のつついタウン」の様子をみんなで見て、感じて、思ったことを自然に交流できる場の設定が望ましかったと考える。</p>	<p>モデル作品の鑑賞活動</p> <p>グループ学習 材料スペースの工夫</p> <p>★鑑賞活動の設定の仕方</p>
6年	<p>○ 全員の作品を掲示し、見合うことで、様々な表現方法に触れることができた。また、題名から作品を見つけ、理由を話し合う活動を繰り返したことで、子ども達は、少しずつイメージが広がり、活発な表現活動へとつながったのではないかと考える。振り返りカードにもあるように友達作品を鑑賞することで、自分の世界を広げることができた子どももいる。</p> <p>「試す」段階では、偶然にできた色（墨の濃淡）や形を楽しむ活動だったが、「イメージを広げる」段階では、子ども達は、自分のイメージに合う材料や用具を選んで表現活動をしていた。自分のイメージを表現するために必要となる身近な材料や用具を豊富に準備していたので、子ども達は、イメージを広げ、自由に思いを表すことができたようだ。</p> <p>★ 子どもの作品と題名をつなぐ活動では、全員の作品を取り上げたので、話し合いの活動に時間がかかり、表現活動の時間を十分に取ることはできなかった。また、作品と題名をつなげるだけで、子どもの思いを発表させる時間も十分に取れなかった。そこで、話し合いをグループ活動にしたり、話し合う内容を焦点化したりするなどして、短時間で効果的な話し合いを行い、表現活動の時間を確保する必要があったと考える。</p> <p>表現活動の段階では、図工室は、狭く、筆を振ったり墨をたらしたりするなどの伸び伸びとした表現活動ができずにいた子どももいた。広い部屋で伸び伸びと自分の思いを表現する場の設定ができたらよかったと考える。</p>	<p>子ども全員の作品の鑑賞</p> <p>必要な材料や用具の準備</p> <p>★グループでの話し合い、話し合う内容の焦点化⇒短時間での効果的な話し合い活動 広い活動の場の設定</p>

【着眼3】学習評価の工夫

学年	○ 成果 ★ 課題	キーワード
2年	<p>○ 一枚の画用紙の裏表にまとめたため、子ども自身は自分の活動を振り返ったり、変容を見つけたりすることが容易にできた。教師は、ひとりひとりの活動の様子や、見通しをつかむことができ、手立てや支援に役立てることができた。</p>	<p>「ふりかえりシート」 一枚の画用紙（裏表）</p> <p>㊦ 活動の振り返りや変容の発見が容易</p> <p>㊧ 活動の様子や見通しをつかむ。手立てや支援に役立つ</p>

<p>4年</p>	<p>○ 子どもは毎時間自分の活動を振り返りながら次時の活動に向けて見通しをもって活動を行うことができた。また、教師が子どもの困っているところを見取り、コメントを書いたり助言したりした。一枚のワークシートに全てをまとめることで、子どもの思考の流れを途切れさせることなく、前時の自分を振り返ったり次時を見通したりすることができた。</p>		<p>「ふりかえりシート」 一枚のワークシート</p> <p>⓪ 活動の振り返り・次時の活動に向けての見通し</p> <p>⓫ 困りの見取り、コメントや助言</p>
<p>5年</p>	<p>○ 自己評価する「ふりかえりシート」を活用したことは、自分の活動に対して価値付けたり、次時への見通しをもったりする主体的な学びを支えるものとなった。また、教師にとっても、個々の変容や困り感を確認することができ、次時への個別の支援策を考える手がかりとなった。</p>		<p>「ふりかえりシート」</p> <p>⓪ 活動の価値付け、次時への見通し</p> <p>⓫ 個々の変容や困り感の把握</p>
<p>6年</p>	<p>○ 自分の思いがどのくらい表せたかを記入する「ふりかえりシート」を作成し、活用したことは、子どもが自分の学びを振り返って、自分の活動に対して価値付けをしたり、次時への見通しをもったりする主体的な学びを支えるものとなった。</p> <p>また、教師にとっても、個々の子どもの内面、またその変容を一目でとらえることができ、次時での個別の支援策を考える手がかりとなって機能した。</p>		<p>「ふりかえりシート」</p> <p>思いをどのくらい表現できたかを%で図示。</p> <p>⓪ 活動の価値付け、次時への見通し</p> <p>⓫ 個々の内面や変容の把握、個別の支援策の手掛かり</p>

<研究の成果>

- 子どもにとっての非日常性、意外性、材料の可塑性や可変性の視点をもって題材設定することや導入における鑑賞材料を工夫することで、活動意欲を喚起し、子ども一人一人の感性や想像力を働かせることができた。
- 材料コーナーの配置の工夫、座席の配置、鑑賞タイムの設定、言語活動の工夫等により、見方や感じ方を広げる対話的な活動が生まれ、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことにつながった。
- 導入での鑑賞活動、学習段階（節目）ごとの鑑賞活動等、題材によってどの段階がよいか異なるが、造形活動と鑑賞活動を往還するように学習過程を工夫し、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重視することにより、造形的な見方、考え方を深めていく様子が見られた。
- 「一枚ワークシート」等を活用し、活動を振り返ったり、次の見通しをもったりすることで、教師は指導・支援策の手掛かりを得ることができるとともに、子どもは自分の学びや変容を自覚し、主体的な学びにつながっていった。